

答え合わせ・解説

問1	答え 4 惣村	惣村は、村人が共同で地主や守護大名に対抗するための組織でした。村人たちは「寄合」を開いて村のルールを決めたり、用水路の管理を行ったりしました。また、守護大名が過度な年貢を取りに来たときには、団結して抵抗する権利も持っていました。これにより、中世の村は高い自主性を持つようになりました。
問2	答え 1 土倉	「土倉（どそう）」は、もともと商品を保管する倉庫を指していましたが、預かった商品を担保にして金を貸す質屋のような役割を持つようになりました。酒屋とともに幕府から営業の認可を得る代わりに税を納めることで、幕府の重要な財源となりました。
問3	答え 1 鹿苑寺金閣	鹿苑寺金閣は、この北山山荘の中核として建てられた舍利殿です。2層と3層に金箔が貼られており、池に映る姿は室町文化の豪華さを象徴しています。
問4	答え 3 管領	管領（かんれい）は、幕府の最高責任者として将軍を補佐する役職です。スズ・ホソカワ・ハタケヤマの三つの家（三管領）が交代で就任する慣例がありました。彼らは幕府の重要な政策決定に携わり、将軍と協力して政治を動かしました。
問5	答え 3 応仁の乱	約11年間にわたって京都の市街地が戦場となり、寺院や屋敷が焼き払われました。京都の街は壊滅的な被害を受けましたが、一方で幕府の権威は地に落ち、全国で下剋上の風潮が強まることとなりました。
問6	答え 3 足利義満	義満は、観阿弥・世阿弥の父子による猿楽（能）の才能を高く評価し、強力な後援者となりました。これにより、能は庶民の芸能から武家社会でも愛される芸術性の高い芸能へと進化しました。また、彼は金閣を建てるなど北山文化を築いたことでも知られています。
問7	答え 4 東山文化	東山文化は、禅宗の影響を強く受けているのが特徴です。簡素で落ち着いた「わび・さび」の精神が重視され、書院造の原型や水墨画、能楽などが大きく発展しました。これまでの武家文化と公家文化が融合し、現代の日本文化にもつながる大きな影響を与えました。
問8	答え 1 万葉集	万葉集は、天皇や貴族だけでなく、防人や名もなき人々が詠んだ歌を約4500首も集めた巨大な歌集です。その中には浦島太郎の原型となる物語が含まれており、後世の文学や絵入りの物語に多大な影響を与えました。
問9	答え 4 管領	管領は、将軍の下で幕政を統括する最高の役職です。特に斯波・細川・畠山という有力な守護大名の家系が交代で就任する「三管領」と呼ばれる制度が定着しました。
問10	答え 1 和室	室町時代に発達した書院造は、床の間や違い棚、障子、襖、そして部屋全体に敷き詰められた畳が特徴です。これが慈照寺銀閣の同仁齋という部屋に結実し、後の住宅様式の基本となりました。
問11	答え 4 足利義満	室町幕府の第3代将軍である足利義満は、力のある守護大名を抑え込むと同時に、1392年に南朝の天皇から北朝の天皇へ位を譲らせる形で南北朝を合体（統一）させました。
問12	答え 1 勘合	「勘合」は、日本と明がそれぞれ発行する二枚一組の符札です。これを照らし合わせることで貿易船の身分を証明しました。この札を持つ船だけが貿易を認められたため、この貿易を「勘合貿易」と呼びます。
問13	答え 2 足利義政	足利義政は京都の東山に山荘を構え、茶の湯や華道、連歌などの文化的な活動を奨励しました。義政自身が理想とした「わび・さび」という美的感覚が、その後の建築や庭園のデザインに反映されました。
問14	答え 4 日明貿易	日明貿易は、当時の日本にとって中国の文物を輸入する重要な手段でした。明側からは銅銭（永楽通宝など）や絹織物、書物などが輸入され、日本からは金、銀、工芸品などが輸出されました。この利益によって堺や博多の都市が繁栄し、経済的に自立する大きな原動力となりました。
問15	答え 2 1467	この年（1467年）に、京都を舞台として守護大名同士の激しい武力衝突が始まりました。これにより京都の町は荒廃し、幕府の統治能力は著しく低下しました。幕府の権威を揺るがす大きな出来事となり、日本全国の武士たちを巻き込む戦乱へと発展しました。
問16	答え 1 足利義政	足利義政は京都の東山に山荘（現在の慈照寺）を建て、そこを拠点に水墨画、茶の湯、華道などを愛好しました。この時期に醸成された文化は、簡素で気品のある「わび・さび」の精神を重んじる東山文化として完成されました。